

お元気で

(演者は目立つてほつそりとしていなければいけない)

確かによく考えてみれば、自転車運動とはまったく馬鹿げたことでありますな。私なんぞは自転車なんかそもそも運動したくないんだが、医者が乗れって言うんです。「あなた、運動しないといけませんぞ、さもないと太ってしまいますよ」って言うんですよ。まあ、私はちっとも太ってはおりませんけどね。ただのおつちよこちよいというだけですがね。夜、ベルをつけずに何度、走ったことか、もちろんライトだつてつけてません。実は夜にはライトなしでは絶対走らないんです。昼間はもつと走りません。それに冬場の夕暮れ時でもです。冬はまったく走りません。自転車でもう何度もちよつとした事故に遭っています、それでもまだ乗っております。つい先日のこと、私は自転車ごと自動車の下に突っ込んでしまいました。この時はすぐ運が良かったのです。その車の運転手が私の親友だったもので、私が走ってくるのを見て、急ブレーキを踏んだのです。もしそうでなかったら、私はおだぶつになっていたでしょう。こんなことがあつたもんで、もう自転車運転はすっぱりやめるつもりなんです。でも、自転車を人に売ってしまうまでは、自分で乗っていたいですね。自転車運転は体にいいはずですよ。これは誰も否定できないでしょう。これは絶対いいんです、健康、特に肺の健康には(悪性の咳をする)今から私の健康法をお話しましょう。私はこんな風にしております。午前十一時にベッドを出まして、二、三本上等の葉巻を吸います。お昼には、酢と油につけたレーゲンスブルガー・ソーセージを二、三本食べます。これは実に酸っぱい、これが血を作るのです。午後はホルツキルヒェンまで自転車で遠乗りです。気持ち良く、四十キロほどね。そうして目的地に着く頃には体もほてってますが、すぐさま暖かい食堂に座り込んだりはしません。そうではなく、すきま風のひどい入口のところにつつ立って、すっかり体が冷えきったところで大ジョッキで冷たいビールを飲み干すのです。それからパンを一切れ食べます。こうやっても何ともありませんよ。というより、こんな風にしてこそ、力強く、はつらつとした体になれるのです。私をご覧になってください。私はこれをもう何週間も続けております。私の二、三の友人も、この健康法を実行しており、今で

は健康そのものです。

けがをしたこともあります。この間走った時、へそヘルニアブルックになってしまっ
たんです。いや又骨骨折ブルックと言つつもりだったんです。この時以来、もう自転車
競争にうんざりしてしまいました。もう一生、自転車競争はしません。お恥ず
かしいんですが白状すると、私は競争の時、常にびりなんです。でも、私が悪
いではありませんよ。他の奴らのせいなんです。だって、いつも先に走って
いつてしまうのですから。皆さん、一等になった奴は病気です。追跡妄想にか
かってるんです。この男は競争の時、二番手の奴が自分を追跡していると思
込んでしまうんです。だから当然、気狂いのようにスピードを出します。それ
で、一等になるって訳です。みんなが一等にはなれません。そんなことはち
ゃんとした競争ではあつてはならないことです。そんなことは馬鹿げてます
よ、もちろん。

何度か、私は先導をやったことがあります。でも、他の人にとっては意味が
ありませんでした。私ではほとんど風よけにはなりませんからね。

もつとも面白いことをまだお話しなければなりません。私はサイクリング・
クラブ「風の犬」の代表をしています。最近、工場からうちのクラブに新しい
旗をもらいました。すばらしくきれいな旗なんですよ。そしてこの旗には錦糸
で格言が縫い取りされているんです。「事を計るは人、事をなすは神」人は心
に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導くのは主である。何秒か私は深
く深く自転車走行のこの格言について考えてみました。押し黙ったまま私は自
転車を引き出し、クラブを出ました。自転車にまたがり、腕を組み、鼻を空に
向け、方向を定めずに走らせました。五メートル進んだところで、私は家の角
に向かつて投げ出されました。気がつくとは私はすっかりけがをして地面に倒れ
ていました。私は後悔して起き上がり、また自転車にまたがりました。この時
以来、やっぱり自分で方向を定めて走らせておきます。

私は自転車には少年の頃から乗っております。十九になるかならぬかの子供
の時分、私は自分の三輪車でニュルンベルクまで行こうと決心しました。その
車種の時速は四キロでしたので、追風ならば九日でニュルンベルクに到着する

だろうと見積もりました。その時、二日後にならないと出発できませんでした。というのは両親との別れに一日、花嫁との別れに　一晩かかったからです。当局の方々とか市長とかは来ず、私だけが出発地点におりました。天気はすばらしく　ほとんど晴れと言ってよかったですでしょう。そよ風が私の長距離用自転車の車輪の間を通っていきました。鋼鉄の馬に威勢よく飛び乗り、もう一度故郷を振り返ると、私のぼる車は大気を切り裂いていきました。半時間、疾走したところで、私は最初の休憩を取りました。この時の長距離行では休憩の際、自転車を、道路に置いておかなければならないことがわかっていましたから、私は用心して、大きなブリキ板に、「盗まないで下さい」と書いて持参しました。ですから、少なくとも盗みに対しては安心だったのです。そして気分も新たにその先も自転車を快調に飛ばして行きました。　　お元気で。